

車両補修で石綿を吸って死亡

旧国鉄職員に労災認定

が見つかり、10月に国立療養所千葉東病院で手術を受けたが、今年3月に胸膜中皮腫で死亡した。

久富さんは今年2月、旧国鉄の業務災害補償を担当する国鉄清算事業本部に労災申請し、6月に認定された。同事業本部は今年3月、兵庫県内の男性(61)を同様に労災認定している。【大石雅康】

ばれる。造船や建設、解体工事の作業員に被害が多い。死者は95年の500人から00年700人、01年772人、02年810人と増加している。

旧国鉄で車両の補修などを担当した元職員の男性が、アスベスト(石綿)の吸引による中皮腫で今年3月に死亡し、労災認定を受けていたことが、分かった。旧国鉄の補償業務を引き継いだ国鉄清算事業本部による認定は全国で2例目。厚生労働省は今年10月から石綿の製造、使用を原則禁止にするが、石綿による中皮腫は吸引から数十年後に発症する例が多く、患者が原因に気付かないケースも多い。労災認定を受けたの

は、千葉県の久富義孝さん(当時76歳)。久富さんは1960〜83年、東京都内の電車区に勤務し、車両の補修、検査を担当。当時の車両は断熱材や不燃材として石綿を使用しており、床下に積もった石綿を含む粉じんを

吹き飛ばしながら作業したという。昨年7月に肺に水がたまるなどの異状

中皮腫 胸膜、腹膜、心膜など臓器を覆う膜の表面にできる腫瘍(しゅよう)。多くは石綿の吸引が原因で、「アスベストがん」とも呼

ことば) う膜の表面にできる腫瘍(しゅよう)。多くは石綿の吸引が原因で、「アスベストがん」とも呼